

## 即興で伝える・受け止めるやりとりとその意味 ～インタラクティブな表現の可能性についての考察～

花岡清美 遠藤知里 田村元延 森広樹 木下藍 加藤明代

### 1. はじめに

本報告では、本学短期大学部保育科1年生を対象としている科目「保育内容研究Ⅴ（表現A）」において、前期から後期の4回にかけ授業で行った「トワイライト」をモチーフとした様々な表現活動および即興の表現の試みにおける、他者と関わり合うこと＝インタラクションの意味について考察したいと思う。

#### 1.1. 環境、モノ、人との関わりと多様な表現活動の可能性

幼稚園教育要領において領域表現では「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ために、幼児の興味や関心を引き出すよう構成された魅力的な環境や一緒に楽しさを共有する教師や仲間とのインタラクションの重要性についても言及されている。

表現の形態とは、形式的なものから形をとらない即興的なものまで幅広く存在、成立しうるものであり、子どもの遊びに垣間見られるように、気持ちやイメージにまかせていつもとちょっと違う初めてのことを試みる中で、複数の領域をまたいだ遊びが繰り広げられることもあるだろう。

本科目では「野外活動」、「身体運動」、「造形」、「音楽」の専門領域をもつ教員によって、授業内で教員が連携し柔軟に関わり、時には表現する姿を見せていくということが行われている。これは多様な領域に触れられる環境構成や関連する実際のインタラクションを通して学びが活性化されるための積極的な工夫でもある。

今回取り上げた即興表現とは多くの学生にとっては初めて挑戦するものであった。即興においては、計画を起し各自準備はするものの、基本的には発表の中で表現を作り出すプロセスも偶発的な変化も全て見せていくものである。これに取り組む中で環境やモノにアプローチし様々な表現を子どもの目で捉えなおし、相互のやり取りにより立場を超えて共有したい気持ちを感じ取り、反応し合うこと、同時進行的に自他の気持ちや表情、行動や感覚的な変化も観察していくことが可能ではないかと考えられた。

### 2. 授業実践

#### 2.1. 授業計画

本報告の授業計画概要を表1に示した。デイ1では、教員の表現を鑑賞し参加する構成とした。夏季休暇をはさんだ後期イントロでは前期のリマインドと見通しができるよう後続の授業内容を提示した。またデイ1と同様教員の表現を受け止め、その後表現するという流れをつくることで、活動に取り掛かりやすい工夫をした。教員による表現（2回）はそれぞれ性質の異なる内容を提示して、幅広い内容・質が表現できることを示した。またオンライン学習を有効活用し、Teams上に授業のレジュメを掲載し、

個々の作品の共有とフィードバックを行った。

表1 授業計画概要「トワイライト・デイ」

授業日程		主題	内容
1	7月28日	デイ1: 「ホタルコイ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の即興的表現（「光」×「音」）を受動的に味わう。</li> <li>・環境、モノの性質を探索し、安心できる環境で自由に楽しみ、構成された表現活動に参加する。</li> <li>・表現したものの写真を Teams で共有する</li> </ul>
2	9月15日（授業後半）	後期イントロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の講義</li> <li>・表現したいイメージに基づき環境・場所を選択する。</li> </ul>
3	9月29日	デイ2: 「伝えたいかい？」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の即興的表現「動き」×「音」を受動的に味わう。</li> <li>・ユニットごと（1名～8名程度）他者に伝えたい、他者と楽しみを共有できる即興的表現）を実際に話し合い、試みる作業を通して計画する。</li> </ul>
4	10月6日	デイ3: 「伝えたいYo！」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローテーション式に各ユニットの選んだ場所で30分間伝えたいことを即興的に表現する。</li> <li>・受け止める側も即応的にコメントを贈ったり参加したりする。</li> <li>・教員はドキュメンテーションを作成する。</li> </ul>

※上述の内容に加え、毎回振り返りシートの記入を行った。

## 2.2. デイ1「光」×「音」

### 2.2.1. 活動のねらい

デイ1「光」×「音」では、室内の暗い空間で光と音を用いた教員による即興的な表現「ホタルコイ」を鑑賞し（図1）、その後、自由に制作した作品を手により全員が一堂に会し、即興表現を共に楽しむという活動を行った。そのねらいは、受け止める経験により表現の行われる環境とモノの相互作用を感じ取ること、また表現を共有し互いに味わい様々な制作のプロセスや表現の良さを感じたり学び合うことであった。

「音」	「光」
「ほたるこい変奏曲」(琴・三線) 物語ナレーション(前半) 風(ウインドチャイム)	暗闇に光が散在
<b>即興表現</b>	
(トーンチャイム、カリンバ、レインメーカー、オー シャンドラム、エナジーチャイム、ミニシンバルなど)	ホタルが訪れ遊ぶ (様々な光が増える、動く) ホタルが去っていく (静まる、フェードアウト)
風(ウインドチャイム) 物語ナレーション(後半) 「ほたるこい変奏曲」(琴・三線)	暗闇に光が散在

※ 部分は即興表現に学生が参加。

「ホタルコイ」

月の見えない夏の宵のことです。  
あたりはしんと静まり返っています。

丈の高い草が生い茂る水辺をすすんだところに、湧き水の流れる小川がありました。  
澄んで冷たい水が時折川底の小石を ころころとんからりと転がしたり弾ませたりして  
なにかとても楽しいことが起きるのを待っているようでした。

川底の音に さあ…と風がこたえます。  
「そうだね、あとちょっと、もう少しであのすてきな時にめぐりあえそうだ」

もう少しすれば、あなたにもそんな弾むような歌が聞こえるはずです。そしてそのあとのすてきな時にも…。

さあ、静かに息をひそませていきましょう。

……

ホタルたちがゆらゆらふわりと川辺にあらわれ、あたりは無数の光とそれを喜ぶような空気や音に包まれました。

……

ほんのしばらくの後

「ほーたるこい」夜風がふいて、ホタルたちがだんだんに姿を消すと

また元のように静かな空気の中に 川底の小石たちの弾むようなうたが響いているのが聞こえました。

図1 「ホタルコイ」



図2 光の表現の制作

### 2.2.2. 授業者の気づき

全体でひとつの表現の場をつくり、安心できる環境で自由に表現することを通して、そこで生まれる即興的な交流を大切に活動が行われた。その中で学生は思い思いに制作し持ち寄ったもの、例えばペットボトルに色水やスパンコールを入れ、音の鳴る素材を組み合わせた作品を作り、光を当てるなどしていた。こうした様子から、実際に試みることで初めて分かる質的な変化に心を動かされたり、活動環境を選択し自分なりの感性でその良さ、味わい方を模索するなど、面白さ、心地よさの観点から環境、モノの性質にアプローチしていることに気づかされた。振り返りのコメントからは、新奇のテーマである「トワイライト」自体に興味を持って取り組む様子、表現し受け取る中で心身を通しリラックス感、空気感、視覚・聴覚、非日常的な雰囲気等を認識したこと、身近な光や音をじっくり観察したり変化を見出したりすることで新鮮な驚きと楽しさを見出したことが読み取れた。

## 2.3. 後期イントロ～デイ2・3

### 2.3.1. 活動のねらい

後期3回の授業では、前期の活動を思い出すところから始まり、教員の表現「動き」×「音」を鑑賞した。(図3 ラートを用いた身体運動とピアノの音色の即興表現は、調光に配慮し幾分のうす暗さに光が差し込む中で行われた。) 光の明暗を「トワイライトレベル」(表2)として、自分の好みにあうトワイライトレベルの環境で主体的に即興的な表現を計画し、表す活動「伝えたいYo!」と受け止める活動「受けとめましたYo!」(即時的にコメントをボードに貼り、直接声をかけてメッセージを贈る)(各30分間)の両方を体験できるよう組み合わせ、全体を2部構成で行った(表3、図4)。

この活動におけるねらいは、即興的なやりとりや伝え手と受け止め手の間で生まれる即時的な交流とその意味について認識することと活動を通して変化する心身の反応への気づきを促すことであった。

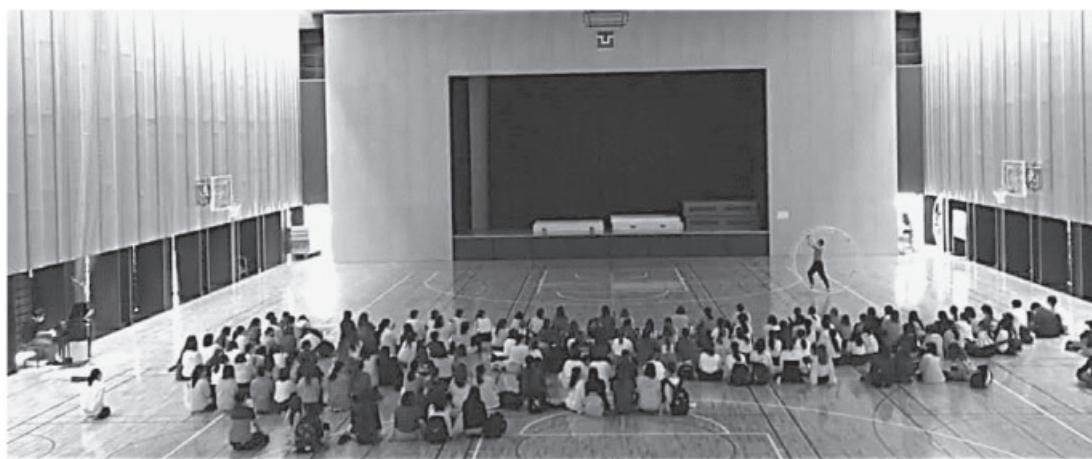


図3 「動き」×「音」

表2 トワイライトレベル

暗い	ダンス室
やや暗い	体育館、
～	屋外、テラス
明るい	C201

表3 トワイライトデイ3 プログラム Resume

ユニット	テーマ	アピール・伝えたいこと
ダンス室		
① アンパンマン	「光」×「影」かたつむりののんちゃん	影絵で生き物を楽しむ 楽器で風景を楽しむ
② どすこい	「光」×「音」	クリスマス前のわくわくと静けさ
ぐりとぐら	「光」×「風船」	光の大きさや色で空間の雰囲気が変わることを伝えたい。光単体ではなく、反射する光もアピールしたい。
④ Baby	「光」×「音楽」塔の上のラプンツェル	
⑤ しろたろう	「光」×「絵本」アニマルライト	新しい形で絵本を表現します。
⑥ NNYHM	「影」×「光」	Under the Sea
⑦ rainbow	「光」×「音」リラクゼーション	休らぎをあたえます。
⑧ 森 Girls	「光」×「音」	
⑨ ゆづきーズダニ	「暗闇」×「光」	風船の中にライトを入れるので、色が変わったり、音楽と動きが合ったりするところ。
⑩ Warm Light	「自然（光）」×「アート」	木や和紙、ライトを使った光の暖かさ
体育館		
① YMC（オノ）	「空間」×「光」	プレイハルーンの中に入り、外からあたる光を感じる。囲まれた空間でおちついたゆったりした時間を感じてもらう。
② Zoo × 3	「光」×「音楽」	光と音楽を合わせることで幻想的な世界観を味わってほしい。
③ あもちゃん♡	「光」×「音」	自然な太陽光を使ってきれいに見せる。
④ サンドイッチ	「光」×「水」	卵ランプの光のあたたかさやペットボトルに光をあてたときのあたたかさをあわせる。
⑤ YYYYY		
⑥ TKMN	「光」×「水」	暗いところでどのように光を使うのかその光をどのように生かすのか、その部分を考えて作品を作りたいと思います。「キラキラ」と一言で言っても個人で作ってから合わせるので少し違った輝きになると思います。
⑦ Yes! プリキュア 5!	「光」×「穴あきボール」	光を当てた時の模様を楽しむ。色の違いを感じる。
⑧ ありーな♡	「光」×「倉庫」	ハロウィーン、幻想的な空間、少しの怖さ
⑨ NIMOOM	「光」×「ボール」	暗やみでも楽しくなるよ！
⑩ ブーさん	「光」×「音」	幻想的な光と音の融合
⑪ 5重奏	「光」×「影」影絵	幻想的な玉の世界をお楽しみください。へらへらせず精一杯やります。
⑫ みうとゆかいな仲間たち	「音」×「動き」物の動きと音の面白さ	ボールなどを転がして音と動きを楽しむ。
⑬ 漆坂明里	「光」×「影」	ヒカリと影でエモく…！✿
⑭ ぼむとぼちゃ	「光」×「風」	階段の手すりにライトを結びつける。あおいで風になびかせる。
	風になびいた時のライトの見え方の違い	
C201		
① キタコー	「秋」×「音」	秋の雰囲気と光を調和して季節の良さを感じられる。
② Outlook	「光」×「影」	ペープサート
③ にじ	「光」×「色」	光によっていろんな色彩を楽しんでほしいです。
④ 木下アイアイ	「音」×「影」	美しさ、キレイさ
⑤ 7人のこびと	「色」×「光」	
⑥ 村松とゆかいな仲間たち	「色」×「光」カラフルなものを光らせる。	きらきら！ピカピカ！風船をふくらませて光らせて楽しむ。
テラス・野外		
① ダイキ♡	「自然」×「写真」自然を体全身で感じ、思い出を写真に収める📷	自然の美しさ、自然で遊ぶことの楽しさ
② アオハル	「色」×「風」	色のキレイさと、風を感じながら皆で楽しくやりたい。
③ ツインテールず♡	「アート」×「音楽」外でたこをとばしながら音楽を奏でる。海中を空に表現する。	海中のトワイライト
④ ちなもん	「影」×「陽」	影と日のコントラストで素敵な写真を取り、仲間と感動を分かち合いたい！
⑤ YUKA	「自然」×「リボン」	自然をリボンで丸みこむ。
	自然の中でリボンをつかっておどる。	
流れ星☆ジユニット		
①		



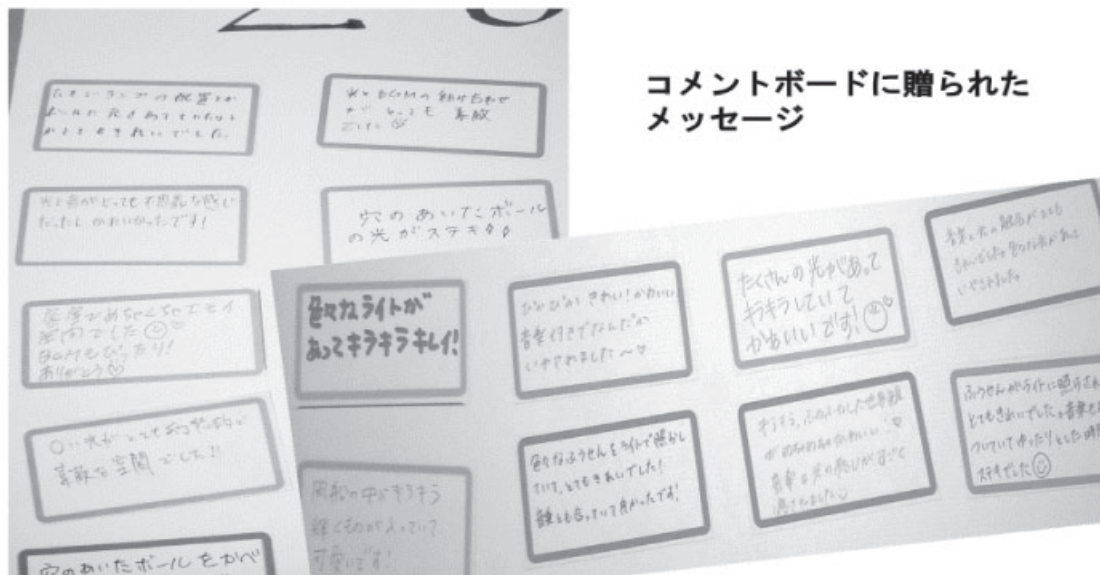


図4「受けとめました Yo!」

### 2.3.2. 授業者の気づき

#### (1) 心地よさに合う表現のプロデュースと相互に関わるプロセスの変化、心身の反応

それぞれの好む「トワイライトレベル」により活動する場所を選択した後、デイ2はそれまでの受動的なスタイル（教員主導の即興表現への参加、教員による即興表現を受け止める体験）から方向転換し、自分たちが主体的に作り出す側になる、即興表現に対するイメージ、やりたい表現のおよその形を起こしていく凝縮した時間となった。

ユニット（個人～複数）ごと、様々に意見を出し合ったり、提示された表現の受け止めに言葉に直して理解、共有し、立場を変えてそれを行うとはどういうことなのかをイメージにするまで話し合ったり、計画を練って準備の作業を行うほか、いくつかユニット再編をする動きもあり、水面下でも揺れ動くプロセスを経ていったことが窺えた。振り返りからは、伝えたいことを考えることの難しさ、試作やイメージが多数出てどんどん良くなっていくことの楽しさ、それぞれの感性を認めながら、ぶつかり合うことでよい形になったこと、実際にモノを扱ってみたり、やりたいことに取り掛かってみることでイメージが明確になり、話し合いがしやすくなったことなどを考えていたことに気づかされた。また、次にやることを考えワクワクした気持ちや即興という初めての活動に対して不安や緊張の混じった複雑な心境が感じられた可能性が考えられた。

続くデイ3では、即興表現を通したインタラク션을仲間同士で試行錯誤しながら作り上げていく様子が見られた。（参照：「教員によるドキュメンテーション」文末に掲載）以下のように、時系列で振り返りを並べるとそうした即興表現を生み出す過程がインタラクシオンとともに質的に変化していったことが見て取れた。

序盤では、いくつかのアクシデントや不都合を発見しながらも、実行に移すことで不安が解消されていたようであった。また、場合によってはメンバーとアイデアを出し合ってそれを乗り越えることができた例もあった。自分たちの表現がほかの意味や価値観の解釈につながることも発見だったようだ。その後回数を重ねるにつれ、面白さや山場が出てきて、引き付けられながらそれを楽しめたこと、自分たちに臨機応変に対応できる力があることに気づき、それらを盛り上がる気持ちと共に仲間と分かち合え

たこと、相手を喜ばせたい思いが表現を支えていたこと等が挙げられる。また、受け止める経験からは、相手の表すものからその意図を理解し、楽しみ励ますようにその場を共にし、温めていたことが窺える。表す事と受け止める事が即興的に作り出すプロセスの中で相互作用を起こし、それが心に残ったのではないだろうか。

心身の反応においては、緊張や不安が解消され安心感、解放感、自信を持てた様である。受け止められ即時的にコメントをもらうことにより表情や行動が柔らかくなっていたこと、表現を行う中で次第に心拍数、体温の上昇が感じられたこと、受け止める際に相手のドキドキが伝わってくること、心地よさは人それぞれ異なるということを考えられたようである。

## (2) 環境、モノ、表現活動の主体的な探索・捉えなおし

周囲の環境の中に、美しさ、心地よさなどを感じ取り、その中で即興的な遊び、継時的に変化する表現を自ら作り出し、仲間と共有する活動が展開されていたが、その中でモノの性質や特徴を感覚的によく調べ吟味して可能な表現方法と組み合わせる様子が見られた。加えて、他者によく伝えるためにデイ2の準備段階からデイ3の即興段階まで様々な工夫を凝らしていたことも窺えた。

準備段階（デイ2）では、環境である空模様が気持ちに影響すること、メンバーのわずかな音の変化を純粹にすごいねと感じていたこと、ピアノで雨の音の表現を探すとしみじみしたしっとりした気分になり落ち着いたことなど、活動拠点で感じ取ったこと行ったことを率直に自らの感性でキャッチして、楽しめることや表現できそうなことに視線が送られており、デイ3では、伝えきった後の爽快さ、暗い場所ではリラックスし落ち着き無心になれること、風の強さによってよりよいものが表現でき、自然を感じることの楽しさを心から味わったこと、嗅覚は身体に伝わり暖かい気持ちになる等、活動的なものから鎮静的なものまで様々なタイプの心地よさを率直且つ肯定的に捉えられていると推測され、個人によって異なる環境、モノ、表現活動に対しての捉えなおしの可能性について考えさせられた。

## 3. まとめ

### 3.1. 即興表現におけるインタラクションのもたらすもの

今回の授業では、「光」のもたらす多様な環境と様々な領野を掛け合わせる中で即興表現を作り出す事、受け止める事の双方向の体験を試みた。計画段階では、初めてのことに戸惑い改めて言葉にして解釈し捉えようとするとし難しさや抵抗を感じることもあったようだが、準備段階で表現したいことの骨組みを作って試みたり、発表場面で相手の顔を見てフィードバックをもらいながら試行錯誤を繰り返す中で活動の目的が明瞭度を増し、集団及び個人の内部でそうした循環が繰り返されたのではないかと考えられた。また、期せずして生まれた即時的な反応から変化させていったもの、相互交流からテンポや緩急の流れが形作られていったこともあったようだ。

また、即興表現では、事前にあらゆる起こりうる状況を想像し、対応のために準備し尽くすことが難しいが、その時、その場限りの双方の気持ちを揺り動かすやりとりと共体験ができること、また十分に表したという実感がある場合にも、受け止め手の世界観によって、多様な受け取り方や理解がある点も各々に強い印象を残したようである。

こうした経験を複数回経験していく中で、表現は反復する双方のインタラクションを通して望ましい形に変化しうるものであるということの認識に至るのではないだろうか。

### 3.2. 心と身体の反応

振り返りによると、活動を通して多くの学生が様々な心身の反応を感じていることが分かった。デイ2、3では、緊張や不安状態から一転して解放、安心感、満足感を感じるというダイナミックな変化が共通して生じているようであった。

これは、初めて即興表現をすることや他者に受け入れてもらえるかということ、また自分たちの作り出すものに自ら向き合うことから生じる緊張や不安状態から、表現とはその場に応じてある程度かじ取りの効くものであり現実的な到達感となる着地点がどこかにあるものだという気づきにより解放され、安心感や自己効力感に代わっていったと類推する。それは目指すものと現実的な対応をすり合わせ、表現者と受け取り手のやり取りの間の軸に乗せる、間主観性を働かせるような共働的なプロセスの体験とも考えられる。

### 3.3. 環境と表現活動を主体的に捉えなおす

「トワイライト」とはこちらでもあちらでもない「誰そ彼」、あわい（間）を表す言葉である。私たちの暮らす地球や内観する世界には昼とも夜とも判然としないアンビギュアスな幅広い明暗のレベルが存在すると考えられる。この曖昧さの中で自分の心地よさを拠り所に表現活動を行うことで、そこから生じ他者と相互につながる喜びの源泉のようなものが、それぞれの心に認識されたのではないだろうか。またそれが転じて、多様な心地よさがそれぞれの個性と結びつき存在するということへの気づきを促し、個々に綴られる固有の物語ともいえる表現に耳を傾け、声を聴き取るように相互に尊重し関わりをもっていくことが環境と表現活動を改めて捉えなおすことにつながっていけばよいと思う。

### 引用・参考文献

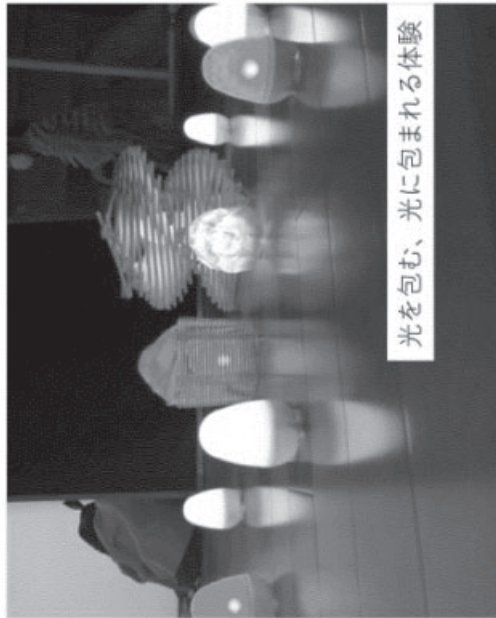
文部科学省 幼稚園教育要領解説（2018）233－247. フレーベル館.  
無藤隆 監修 浜口順子編 領域表現（2018）萌文書林.







目をつぶる、聴覚だけで  
ボールをキャッチ！



光を包む、光に包まれる体験



暗闇で繰り広げられる躍動感にワクワク！

明

トワイライトレベルから生まれる様々な表し

暗



灯火と音で癒される  
展示空間♪



音楽で描く、トワイライトレベル♪



C201に現れた小さな世界♪



## 2020 Twilight Day



明暗闇光音動色を操る1日

